



高リン血症の発症に先行して血中FGF23濃度が上昇していた慢性腎臓病の症例

症例プロフィール

基本/疾患情報

ブルドック、3歳4ヶ月齢、去勢雄、31.75kg。
CKDステージ2、多飲多尿あり。

来院目的

腎機能マーカー上昇の精査のため。

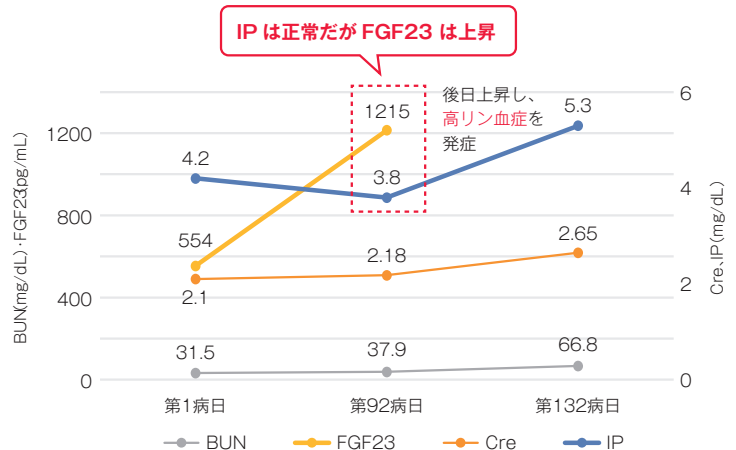
診断

当院での、年齢・経過および超音波検査から
腎異形成疑いと診断。

臨床経過

アレルギー既往のため手作り食で経過を観察。

(図1) FGF23とIPの推移



検査所見・経過

第1病日

高窒素血症および多飲多尿が認められた。
アレルギーの既往があるため、現在の食事
で経過観察することとした。

第92病日

Creに変化はなし。
IPは正常だが、FGF23が上昇していた。
食事変更はせず、経過観察することとした。

第132病日

Creが上昇し、高リン血症を発症した。

(表1) 検査結果・臨床症状・食事内容の経過

	第1病日	第92病日	第132病日
BUN	31.5 (↑)	37.9 (↑)	66.8 (↑)
Cre	2.1 (↑)	2.18 (↑)	2.65 (↑)
IP	4.2 (-)	3.8 (-)	5.3 (↑)
FGF23	554 (↑)	1215 (↑)	-
尿比重	1.012 (↓)	1.004 (↓)	1.011 (↓)
UPC	0.508 (↑)	0.416 (-)	-
臨床症状	多飲多尿	多飲多尿	多飲多尿
食事内容	アレルギーがあるため、 手作り食	手作り食	手作り食

() 内の表示は富士フィルムVETシステムズ参考基準範囲に対しての変動を表す
(↑): 参考基準範囲超過 (-): 参考基準範囲内 (↓): 参考基準範囲未満

考察

- CKDの診断後FGF23が高値になり、その後に高リン血症を発症した。
- FGF23の上昇は高リン血症を予測している可能性がある。
- 既往のため食事療法を行わなかった。FGF23が上昇した段階でリンの制限を開始していたら、高リン血症を予防できていた可能性がある。